

# 全体委員会で検討をお願いしたい事項

斎藤 憲

2017年5月24日

全体委員の皆様、

6月3日の総会で会長に就任する斎藤です。よろしくお願い申し上げます。

さて、6月2日、およびその後に設定される数回の全体委員会で検討をお願いしたい事項を、私の私案も含めて、まとめてお知らせいたします。実現が容易でない事項、意見が分かれる事項もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

第1回全体委員会では、以下の提案について、少なくとも第2回以降の全体委員会で検討する優先順位を決めたいと思います。

## 1 第2回以降の全体委員会の日程

1. 第2回全体委員会は年会・総会の4週間後に開かれることが多いが、今年は7月1日から2日に科学社会学会が開催されるので、7月2日（日）は難しい。その前の6月25日（日）に開催したい。（第2候補は7月9日（日））。
2. 第3回全体委員会についても、できるだけ日程を決めておきたい。

## 2 若手支援と会員の意見聴取を目的とした集会の実施

これについては、前に皆様にお送りした文書で説明しました。ご意見や積極的なご提案を頂ければ有り難いと存じます。よろしくお願いいたします。

### 3 選挙規定と運用

選挙について、1年半後に公示される選挙について次の検討課題がある。

1. 全体的に日程が長すぎる。
2. 投票用紙が「科学史研究」などと同時に送られることは好ましくない。
3. 自薦候補者が当初の立候補推薦締切時に「立候補者の言葉」を求められるのに対し、他薦候補者は推薦受諾の時点でよく、不公平なこと。
4. 2つの役職に立候補すると、「立候補者の言葉」を長く書けること。
5. 役員が総会で就任し、そのときに予算案が承認されるので、任期の最初の1年は前期の役員が作った予算で活動せねばならないこと。
6. 選挙広報を見ても、誰がどういう人かわかりにくく、投票意欲がわからない。
7. 開票立会人を選管が指名していること。

これに対する私案は以下のとおりです。

1. 立候補・推薦締切りは12月28日。被推薦者に年内に通知し、推薦受諾の締切は1月10日頃。
2. 公示は1月15日頃（ネット上で）
3. 投票用紙と選挙公報の送付は1月30日頃（海外在住の会員には投票用紙のみ前倒しで発送）。
4. 投票は投票用紙送付後、2月25日頃まで。
5. 2月28日頃開票。開票当日中にネット上で結果を発表し、新役員は4月1日就任。
6. 総会に提案される予算・議案は新役員が作る。
7. 立候補可能なのは一つの役職のみとする。
8. 「立候補者の言葉」は他薦候補の推薦受諾の締切りに合わせる。

9. 立会人は立候補者が推薦するものとし、推薦された立会人の数が多いときは抽選する。
10. 選挙公報では、関心のある分野、現職、会員歴、役員歴、役員としての活動（委員会への出欠など）を一覧できる表を作る。

## 4 学会 web サイトの運営改善

1. 学会のサイトに必要な情報が載っていない。また検索が容易でない。（研究倫理作成関係の情報を私は見つけられなかった。『科学史通信』を紛失したらどうにもならない。これでは意見が集まらない。）
2. 十分な情報が掲載され、必要な情報が見つかるように、サイトの構築を再検討する必要がある。
3. また、ログインした会員だけが閲覧できる専用ページを作ることができることが望ましい。たとえば『科学史通信』を掲載する。

## 5 全体委員会運営態勢について

以下のことを提案します。

1. 各委員会、および全体委員会のメールアドレスを作り会員に告知する。全体委員会宛メールは当番委員（下記参照）が対応する。
2. 全体委員会（2年間に約10回開催）は、開催ごとに、次回開催までの当番委員3名を決めて（輪番）、議題の準備、開催までの期間の全体委員会への問い合わせへの対応などをおこなう。
3. 各委員会は、開催されるごとに、次回開催日を決定、議事録と次回開催日を開催後1週間以内に学会ホームページで告知。
4. 全体委員会、および各委員会の連絡と情報共有のためのグループウェアを導入する。（無料版、有料版、独自のサーバにインストールして運営、の3つの方法について検討する。）実際に委員が集まる委員会の場では、将来構想などの実質的な議論に時間を割きたい。

## 6 和文誌委員会に関する提案

現在の和文誌編集はさまざまな困難を抱えています。以下の提案をご検討ください。

1. 専門分野ごとに、知識・経験が豊富な会員に編集協力委員 (associate editor) への就任をお願いする。編集協力委員は編集会議には出席しないが、担当する分野の論文の投稿があったときは査読者となり、その論文の採否の決定に関与する。(通常の査読者は査読報告を出すだけであるが、編集協力委員は担当論文の最終的な採否の決定に関与する。)
2. 和文誌編集委員会から、書評・紹介の編集を分離し、書評編集委員 (review editor) 数名 (うち 1 名は委員長) を置く。

## 7 科学史通信に関する提案

科学史通信には、次のような問題があると考えています。

1. 判型が小さく、情報量が少ない。手書き原稿から印刷所が作成していた時代から変わっていない。
2. 過去の記事の索引がなく、有益な記事が載っても数年後には埋もれてしまう。

以下の提案をご検討ください。

1. 科学史通信の判型を大きくして実質的に内容を増やす。(ファイリングには A 4 版が便利)
2. 通信を受け取ることが会員になる動機となりうるようなものを目指す。
3. 索引を作成して後で検索可能にする。(将来的には過去記事の索引も)
4. 以上のことは業務量の増加を伴うので『通信』の編集にかかわる委員の人数を増やす必要がある。
5. 通信に掲載すべき内容は次のようなものが考えられます (一部現在のものと重複)

- 各委員会，支部会の，今よりも詳しい活動報告。
- 講演・セミナーなどについては，終了後にその概要（具体的な内容）を掲載。
- 科学史に関する授業の紹介。
- 書評よりも簡易な新刊書や資料の紹介。（１点あたり数行の説明をつけ，著者や出版社からの投稿を受付ける．良識の範囲での簡単な審査はこなう。）

## 8 学会賞について

日本科学史学会学術賞が１０年間にわたって該当なしとなっています。これは科学史において１０年間，見るべき成果がなかったと学会が公言しているととられかねません。この間，本当に学術賞に該当する成果はなかったのでしょうか。学術賞の選考方法と選考基準について再検討することが必要だと考えます。

## 9 最後に，各委員会に共通する課題

過去数年間の活動と，現在および近い将来における課題・問題について整理して報告し，会員の意見・提案を求めることが必要であると考えています。